

サーベイランスによる川崎病の流行予測 (分担研究：川崎病に関する研究)

柳川洋、中村好一、屋代真弓、藤田委由、永井正規*

川崎富作、大川澄男、園部友良、今田義夫、麻生誠二郎**

要約：厚生省川崎病研究班は1984年以来、全国149病院の協力を得て、川崎病の流行を迅速に把握する目的で、川崎病サーベイランスを実施してきた。その結果、1985年11月-1986年5月の全国的な流行をいち早く察知することができた。また、研究班が別に実施した川崎病全国調査とサーベイランスの成績を比較したところ、サーベイランスにより、流行を早い時期に察知することができ、同時に高い精度で発生患者数も推定しうることがわかった。

見出し語：川崎病、サーベイランス、疫学、流行予測

〔目的〕 川崎病の流行がおきたとき、医療機関および行政担当者ができるだけ早く流行を察知する必要があると考え、1984年1月より全国の主要施設の協力を得て、川崎病サーベイランス事業を実施してきた。今回は1989年12月分までの6年間のまとめを報告する。

〔方法〕 厚生省川崎病研究班が実施した第7回川崎病全国調査(1981.1~82.6の初診患者を対象)の際、患者報告数の多かった病院を府県ごとに選び、サーベイランス事業への協力を依頼した。その結果、全国149施設の参加をいただいたが、現在では担当医の異動等の事情により146施設より報告をいただいている。資料の

収集ははがきを用いて行ない、参加施設より毎月1回、上旬、中旬、下旬別、性別患者数を、翌月7日までに報告してもらい、25日までに集計して結果表を各施設および関係機関にフィードバックした。

〔成績〕 表1は1989年12月末日までの過去6年間に報告された患者数(1990年2月15日現在)である。

サーベイランスで報告された患者数と全国調査で報告された患者数を比較すると、表2に示すように、年によって多少のばらつきはあるが、サーベイランスで報告された患者数の約3倍の患者が全国で発生していることがわかる。この点を考慮

*自治医科大学・公衆衛生 (Department of Public Health, Jichi Medical School)

**日赤医療センター・小児科 (Department of Pediatrics, Japan Red Cross Med. Cent.)

して、サーベイランス成績から全国患者数の推定を行ない、月別に図表化したものが図1である。サーベイランスで報告された月別患者報告数を3倍した値と、全国調査による月別患者報告数を比較すると、1984年3月～5月のわずかな上昇、1985年11月から86年5月にかけての大きな流行共に両調査はほとんど軌を一にしている。この図からもサーベイランスによる患者報告数から、全国調査による患者報告数を的確に予測しうることがわかる。この方法によると全国調査を実施していない1989年の患者数は、1987年1988年とほぼ同数でおよそ5,000人前後と推定される。

図2は、1984年1月～1989年12月までの6年間に報告された患者報告数を地方別、月別に図表化したものである。1985年11月頃から関東・甲信越地方で始まった流行が各地方に広がり全国的大流行となり、1986年5月頃に終息した。その後今日まで新たな患者増加はみられない。

[考察とまとめ] これまでの疫学調査の結果、わが国で、川崎病は2～4年おきに大規模な流行

(1979年春、1982年春および1985年～86年冬の3回)を起こしている。1984年に川崎病サーベイランス事業を開始して以来6年が経過した。この間に第3回の大流行がみられサーベイランス事業では、いち早く流行を察知し関係医療機関に情報を提供することができた。この第3回の大流行が終息した1986年6月以来今年でまる4年になるが、現在のところ患者の増加傾向はまったくみられない。大流行後の1987年以降は、過去にみられたような小さな患者増加もほとんどなく、ここ2、3年の発生数は著しく低い傾向を示している。ただし、今年春に新たな流行がある可能性もあり、注意深く患者発生状況を監視しなければならない。

表2 サーベイランスと全国調査の患者数比較

年次	サーベイランス(A)	全国調査(B)	B/A比
1984	2,204 (人)	6,514 (人)	3.0
1985	2,523	7,611	3.0
1986	3,736	12,847	3.4
1987	1,814	5,256	2.9
1988	1,596	5,217	3.3
1989	1,753	未実施	-

表1 川崎病サーベイランス6年間の月別・性別患者数

1990年2月15日現在

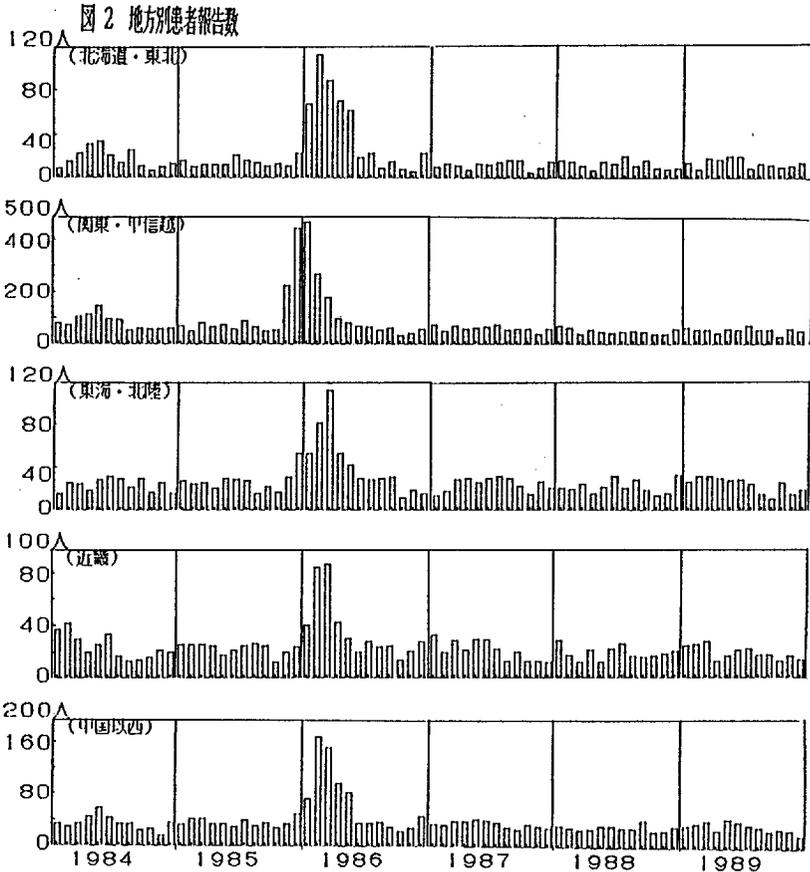
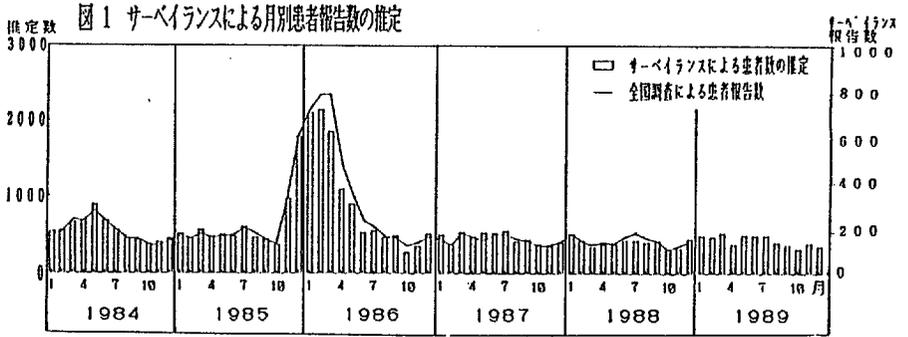
月	1984			1985			1986			1987			1988			1989		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
計	2,204	1,282	922	2,523	1,464	1,059	3,736	2,112	1,624	1,814	1,108	706	1,596	954	642	1,753	1,005	748
1	177	111	66	170	90	80	701	383	318	185	93	72	168	91	77	155	97	58
2	183	101	82	150	97	53	714	424	290	131	76	55	142	91	51	151	75	76
3	217	126	91	185	116	69	618	326	292	177	115	62	112	78	34	176	94	82
4	227	129	98	158	91	67	360	201	159	156	100	56	125	75	50	130	80	50
5	292	178	114	165	95	70	299	164	135	172	114	58	126	84	42	170	116	54
6	226	135	91	159	89	70	173	103	70	175	102	73	142	80	62	150	81	69
7	187	111	76	198	112	86	181	105	76	180	96	84	143	82	61	155	90	65
8	149	85	64	153	92	61	154	93	61	139	82	47	135	77	58	134	68	66
9	140	83	57	145	82	63	161	93	68	144	98	46	140	78	64	129	68	61
10	125	62	63	122	71	51	89	62	27	124	78	46	104	63	41	115	61	54
11	133	79	54	321	187	134	118	65	51	116	64	52	109	67	42	134	93	41
12	148	82	66	597	342	255	170	93	77	135	80	55	150	90	60	125	64	61

Abstract

Estimation of epidemic of Kawasaki disease by surveillance system

Hiroshi Yanagawa*, Yosikazu Nakamura*, Mayumi Yashiro*, Yasuyuki Fujita*, Masaki Nagai*, Tomisaku Kawasaki**, Sumio Okawa**, Tomoyoshi Sonobe**, Yoshio Imada**, Seihiro Aso**

Estimation of the number of Kawasaki disease has been made by surveillance data obtained from 149 leading hospitals throughout Japan. The monthly trend is well consistent with that of nation-wide surveys.





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:厚生省川崎病研究班は1984年以来、全国149病院の協力を得て、川崎病の流行を迅速に把握する目的で、川崎病サーベイランスを実施してきた。その結果、1985年11月-1986年5月の全国的な流行をいち早く察知することができた。また、研究班が別に実施した川崎病全国調査とサーベイランスの成績を比較したところ、サーベイランスにより、流行を早い時期に察知することができ、同時に高い精度で発生患者数も推定しうることがわかった。